

500円の図書券と
県立自然科学館招待券が
当たる!

広報クイズ

毎月たくさんのご応募ありがとうございます。
県立自然科学館のご厚意により、招待券もプレゼントしちゃいます。どしどし応募し

てください。
10月号のクイズの正解は、
①-A、②-A、③-Bでした。応募総数38通、全員が全問正解でした。

【今月の問題】

- ①市初天然記念物に指定されたサルスベリの樹齢は?
(ヒント=8ページ)
A第1号 B第2号
C第3号
- ②西ドイツの銀行の金庫室に預けられていたものは?
(ヒント=13ページ)
A金の延べ板 B宝石
C毛皮のコート
- ③すべての人が加入する国民年金。サラリーマンの奥さんは第?号被保険者?

【応募の方法】

はがきに答えの記号(例①-A)、住所、氏名、年齢を書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で5人に500円の図書券を、3人に県立自然科学館の招待券をペアで差し上げます。
あて先=〒950-12 白根市

当選おめでとう! 10月の広報クイズ

【図書券】

- ▶高井宏晃さん(庄瀬・4歳)
 - ▶植田早苗さん(高井団地・15歳)
 - ▶西村利広さん(鍋湯・16歳)
 - ▶丸山ノリさん(下木山・77歳)
 - ▶大関一男さん(白根・35歳)
- 【県立自然科学館招待券】
- ▶大野正広さん(館・14歳)
 - ▶小笠原 仁さん(東町・14歳)
 - ▶平野 達さん(南新町・6歳)

10月20日に市役所に来られた安宅富子さんから抽選していただきました。



はがきで キャッチボール

今月はいらすとCLUBにお寄せいただいた
はがきから紹介します。



報の九月号を見て、「スクリーン・トーン」を使用する場合ははがれないように……」
こっ、これは私のことだ！
すみません。ほんとうにすみません。

古川宮前町 外川陽子
あなのことじゃないから心配なく。でもトーンががれかけている作品があるのはホント。ちょうど「トーン」を使ってもいいか」という質問もあつたのであんなふうに書いたのです。ただ、印刷の関係で薄いとトーンの出が悪いかもしれせん。そのときは遠慮なく言ってください。

集の方へ：(FAIGHT
!) 四月号のときのよう
イラストの横にコメント付けて
くくださいよ! 期待してるッ。
九月号、一ページまるごとのイラスト、よかったです。また特集してください。六か月に一ページぐらい……
山崎興野 小林奈々子
てよ、見てよ、今月号。や
つぱりコメントあつたほう
がコミュニケーションできる! 変
なコメントがあつたら遠慮なく
笑ってください。
イラストのコーナーでは毎月
ボツにしたくない作品ばかりで
心を痛めます。でも、(山)の
ちばん好きなコーナーです。心
の触れ合いを感じられるから。
広報しろねをどうぞよろしく!

市民談話室

原稿募集

12月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 ☎373-2111(☎)333)です。



私が尾瀬に最初に行ったのが今から二十数年前で、車も多くな、ほとんどが自動車であった。新津から夜行列車に乗り、早朝三時に沼田に着き、さらにバスに乗り換えて約一時間半で、あこがれの尾瀬沼に到着した。はやる気持ちで靴を替える。尾瀬沼を過ぎて、後は湿原の中を一本の木道となる。その左右には四季それぞれの高山植物が咲き乱れ迎えてくれる。この美しい自然に溶け込み、澄んだ空気を胸いっぱい吸い込むと、疲れもいっぺんに取れる。しかも木道で人と擦れ違う際も、元

気な言葉を掛け合うことができ。また、尾瀬ヶ原に沈む夕日はなんとも美しいファンタジックな模様を見せ、心身とも洗いがれた気分は何事にも代えられない。早朝のもやのかかっている湿原の風情もまた格別なものである。
今度から尾瀬に入るのに入山料が必要と聞くが、尾瀬も変わったものである。みんなが自然を傷めず、山を汚さないようにすれば、だれでも楽しめる素晴らしい尾瀬がいつまでも残るものと思う。



街頭指導の思い出

小林フミさん(清水・農業・四十九歳)

朝、国道8号を車で通行中、信号に従って横断歩道を渡る登校中の児童に会うと、昭和四十六年から十四年間、街頭指導をしていたころが懐かしく思い出されます。
今では茨曾根地区では信号機が八か所設置されていますが、その当時は信号機もなく、庚、新村、道湯の児童生徒が国道8号を越えて通学しなければなら

ませんでした。刻一刻交通事情が変わっていく中で、状況を把握しながら一人ひとりが事故に遭わないよう、二人の交通指導員で分担。「車に気を付けてよく見て渡ろうね」と声を掛けてやり、指導員は何も権限はないが、真心と真心のぶつかり合いこそが任務であると信じてやってきました。
どしゃ降りの雨の日、また吹雪の日など、停止の合図をお願いしてもクラクションを鳴らして通り過ぎる車。また私たちが見るとスピードを落とし「寒



尾瀬の思い出

相田莊陸さん(南新町・会社員・四十八歳)



入山料に隔世の感

ようぶ、自分は絶対に事故を起さないとという保証はありません。一ドライバードとして慣れの意識を持つことなく、初心を忘れず、安全運転に努めていきたいと考えています。

市民文芸

俳句

しつかりと詠踏みしめて大根時く
安次 飛浪
玄関のすぐそこまでも葡萄棚
猪股 南魚
甚平着て元より老けて見られけり
成沢 未明
鶏小屋に遠ひのぼりたる南瓜かな
堀内ナナ子
こぼるぎの二つ二つは登も鳴く
公条 雪夫
堤防も露地も畑も虫の秋
細貝 溪子
鬼灯の色つき母の足も近し
五十嵐寛吾
ヨチヨチ子萩の小枝にたはわれて
玉木 長吉
紅葉がり小雨降る夜の露天風呂
渡辺 勲

短歌

病院で脳梗塞と言はれしも
冷えたビールの許しをひたり
小出熊四郎
思いは尽きず孫は主人は
小出上しの

川柳

背の丈の木犀につく花の教
教うるほどの香り漂う
中村 京
割りばしがそろって裂ける佳日和
西条 ムラ
包丁のリズムが軽い今朝の妻
早川 英男
膳立てが済んで切られる冷ややっこ
山岡 フミ
妻と子の拍手でゴール近くなる
吉川 彰
二次会の酒が門限忘れさせ
米野 光雄
マドンナの気炎に消火器を向ける
今井 七郎
幸せを波が崩した砂の城
織田 セツ
秋晴れの愛おらかな赤トンボ
後藤マサノ
おっとりしてる夫婦の波静か
佐藤トミノ
ひとときを林になりますポランテイ
佐藤 ヨキ
働いた背中を夕陽がもみほぐす
高橋祐四雄
ウインクをされてハートの乱調子
竹石 甚五
それぞれのリズムを持っていていび
田中 成子
荒波を乗り切る妻と二人連れ
田村 恒夫
議事堂も山も動かすつむじ風
中村 尚治